第 95 回運用委員会議事要旨

1. 日 時：平成 27 年 6 月 24 日（水）10:00～11:30

2. 場 所：年金積立金管理運用独立行政法人 大会議室

3. 参加者：・米澤委員長 ・堀江委員長代理 ・大野委員 ・佐藤委員
・菅家委員 ・武田委員

4. 議事要旨

(1) 「平成 26 事業年度 財務諸表等（案）及び平成 26 年度 業務概況書（案）」について

質疑等の概要は以下のとおりである。

委 員 インフラ投資をその他有価証券として会計上分類しているが、どのような考えからか。

事務局 平成 25 年度の決算に際し、会計事務所とも相談した結果、当該投資信託には未上場株式が多く含まれているので、国内の会計基準に従ってその他有価証券として簿価で管理すべきとの意見であった。

(2) 「平成 26 年度 年金積立金管理運用独立行政法人業務実績評価シート」について
質疑等の概要は以下のとおりである。

委 員 不正アクセス防御などセキュリティ機能の一層の強化についての記載があるが、具体的にどのようなことをしているのか。

加えて、専門的な人材の採用等、今後の課題についてはどう考えているのか。

事務局 まず、平成 26 年度は法人 LAN システムの更改時期だったが、更改に合わせて侵入防御、ウイルス対策機能を強化した。また、セキュリティーオペレーションセンターサービスを用いた不正アクセス防御・監視を外部業者へ委託している。

さらに、仮に法人内へ不正アクセスがあつて、そこから情報が外部へ流出するところも検知して遮断するシステムも導入した。

それから、標的型メールの訓練も行っており、今年度も抜き打ちでのテストを検討している。

今後の課題については、現状でもしっかり対応しているという認識ではいるが、更に改善すべき点はないか、現在検討しているところ。

専門的な人材の採用については、金融に係る情報システムに長く携わってきた専門能力の高い者を採用しており、また、IT パスポート等の国家資格の取得も推進している。今後も、必要に応じて専門能力の高い人材の採用を進めていきたい。

委 員 情報システム部はどの程度の規模の部署なのか。

事務局 情報システム部は、10人弱の組織ではあるが、平成27年1月から、情報システムを開発する担当課と、セキュリティ対策を専門に行う担当課の2つに組織を分けている。それぞれの課長、部長、担当理事というラインで、責任を持ってやっている。

委員 昨年の自己評価と比較して、平成26年度は下がっているようなケースがあるが、どのような理由からか。

事務局 平成26年度の評価から、総務省で独立行政法人横断的な評価基準が示され、従前と比べて、同じ達成度に対応する評価ランクが引き下げられた影響がある。

委員 セキュリティ対策としてのIT管理が調査・研究の項目に入っているのは違和感がある。リスク管理などの業務運営に関する項目に入れる方がいいのではないか。

事務局 あらかじめ、評価委員会が評価項目ごとにどういった点を評価の対象とするかを定めているため、それに沿って記述していかざるを得ない。

委員 質問が最初でありきでは、ある部分ピント外れのようなものも出てくる。

委員 リスク管理の自己評価が前年度に比べて下がっているのは何故か。

事務局 リスク管理が後退しているというわけではなく、総務省から今年新たに示された評価基準でAとするほど更に進んではいないということ。

厚生労働省 平成26年度から一律の評価基準を示した背景としては、今までは各府省の独法評価委員会で審議した結果を総務省でまとめていたが、それでは、各府省によって評価にばらつきがでる可能性があるので、総務省の方で一定の尺度を示したということ。

委員 平成25年度までの評価の仕組みからどのように変わったのか。

厚生労働省 これまでは各府省の大臣は評価を行わず、独立行政法人評価委員会が第三者的、客観的に評価する仕組みだった。今回の独立行政法人改革に伴い、国の政策面との関係からよりしっかり評価することが必要で、法人の実状を理解している所管大臣が直接評価する仕組みとなった。ただ、大臣の評価だけではなく、ある程度第三者的な立場からの意見も加味すべきではないかということで、従来評価主体だった有識者が大臣の評価をサポートする立場となった。

委員 自己評価が少し抑制されているようだが、必ずしも下がったから下げたというわけではないようなので、前年度との比較はしない方がいいように思う。

(3)「リスク管理状況等の報告(平成27年4月)」について
質疑等の概要は以下のとおりである。

委員 全体としてはよいパフォーマンスだと思うが、個々の資産を見ると、アクティブのパフォーマンスが必ずしもよいわけでもないと感じる。この点の理由はどのように分析しているのか。

事務局 国内株式アクティブで超過収益率がマイナス1.13%だった。昨年のマネジ

ャーストラクチャーの見直しで、伝統的アクティブとスマートベータ型の2つに区分けした。このうち、昨年度は1年間を通して伝統的アクティブが良くなかった。これは、伝統的アクティブの一部の、アンダーパフォームしていた銀行株のウエイトが高くなっていたことが影響した。

事務局 短期的にはマイナスが出る時もプラスが出る時もあると思うが、個々の委託先に対する我々の評価に課題がないのか、ポートフォリオ全体として最適化されているのか、或いは市場環境全体の動きの中で起こったことなのかをモニターしていくことが重要だと思う。

委員 現状のプロセスでは時間がかかりすぎていて、適切なタイミングでの投資を逃す可能性もあると思うので、プロセスの見直しをお願いしたい。

事務局 確かに、プロセスは短くしたいが、そのサイクルが短くなったからといって、適切なタイミングで投資ができるということでもなく、別問題だと思う。

トランジションマネジャーも有効活用しながら、投資後も適切に見直していけるように、全てのサイクルを短くしていけるようにしなければならないと認識している。

以上